

越谷市指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例新旧対照表

新	旧
<p>第3条 条文略</p> <p>2 条文略</p> <p>}</p> <p>9 条文略</p> <p>10 第1項第1号の医師及び同項第6号の介護支援専門員の数は、サテライト型居住施設(越谷市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例(平成24年条例第29号。以下「<u>越谷市指定地域密着型サービス基準条例</u>」という。)<u>第151条第4項に規定するサテライト型居住施設をいう。以下同じ。)</u>の本体施設(同項に規定する本体施設をいう。以下同じ。)である指定介護老人福祉施設であって、当該サテライト型居住施設に医師又は介護支援専門員を置かない場合にあつては、指定介護老人福祉施設の入所者の数及び当該サテライト型居住施設の入所者の数の合計数を基礎として算出しなければならない。</p>	<p>第3条 条文略</p> <p>2 条文略</p> <p>}</p> <p>9 条文略</p> <p>10 第1項第1号の医師及び同項第6号の介護支援専門員の数は、サテライト型居住施設(越谷市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例(平成24年条例第29号)第151条第4項に規定するサテライト型居住施設をいう。以下同じ。)<u>の本体施設(同項に規定する本体施設をいう。以下同じ。)</u>である指定介護老人福祉施設であつて、当該サテライト型居住施設に医師又は介護支援専門員を置かない場合にあつては、指定介護老人福祉施設の入所者の数及び当該サテライト型居住施設の入所者の数の合計数を基礎として算出しなければならない。</p>

11 指定介護老人福祉施設(過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法(令和3年法律第19号)第2条第2項の規定により公示された過疎地域に所在し、かつ、入所定員が30人の指定介護老人福祉施設に限る。以下この条において同じ。)に越谷市指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営等に関する基準を定める条例(平成26年条例第63号。次項において「越谷市指定居宅サービス等基準条例」という。)第147条第1項に規定する指定短期入所生活介護事業所又は越谷市指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法等に関する基準を定める条例(平成26年条例第64号)第129条第1項に規定する指定介護予防短期入所生活介護事業所(以下この項及び次項において「指定短期入所生活介護事業所等」という。)が併設される場合においては、当該指定短期入所生活介護事業所等の医師については、当該指定介護老人福祉施設の医師により当該指定短期入所生活介護事業所等の利用者の健康管理が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

12 指定介護老人福祉施設に越谷市指定居宅サービス等基準条例第99条第1項に規定する指定通所介護事業所、指定短期入所生活介護事業所等、越谷市指定地域密着型サービス基準条例第59条

の3第1項に規定する指定地域密着型通所介護事業所、越谷市指定地域密着型サービス基準条例第61条第1項に規定する併設型指定認知症対応型通所介護の事業を行う事業所又は越谷市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法等に関する基準を定める条例(平成24年条例第30号)第5条第1項に規定する併設型指定介護予防認知症対応型通所介護の事業を行う事業所が併設される場合においては、当該併設される事業所の生活相談員、栄養士又は機能訓練指導員については、当該指定介護老人福祉施設の生活相談員、栄養士若しくは管理栄養士又は機能訓練指導員により当該事業所の利用者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

13 指定介護老人福祉施設に越谷市指定地域密着型サービス基準条例第82条第1項に規定する指定小規模多機能型居宅介護事業所又は越谷市指定地域密着型サービス基準条例第191条第1項に規定する指定看護小規模多機能型居宅介護事業所が併設される場合においては、当該指定介護老人福祉施設の介護支援専門員については、当該併設される事業所の介護支援専門員により当該指定介護老人福祉施設の入所者の処遇が適切に行われると認

められるときは、これを置かないことができる。

(緊急時等の対応)

第23条の2 指定介護老人福祉施設は、現に指定介護福祉施設サービスの提供を行っているときに入所者の病状の急変が生じた場合その他必要な場合のため、あらかじめ、第3条第1項第1号に掲げる医師及び協力医療機関の協力を得て、当該医師及び当該協力医療機関との連携方法その他の緊急時等における対応方法を定めておかなければならない。

2 指定介護老人福祉施設は、前項の医師及び協力医療機関の協力を得て、1年に1回以上、緊急時等における対応方法の見直しを行い、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更を行わなければならない。

(管理者による管理)

第24条 指定介護老人福祉施設の管理者は、専ら当該指定介護老人福祉施設の職務に従事する常勤の者でなければならない。ただし、当該指定介護老人福祉施設の管理上支障がない場合は、他の事業所、施設等又は当該指定介護老人福祉施設のサテライト型居住施設の職務に従事することができる。

(協力医療機関等)

(緊急時等の対応)

第23条の2 指定介護老人福祉施設は、現に指定介護福祉施設サービスの提供を行っているときに入所者の病状の急変が生じた場合その他必要な場合のため、あらかじめ、第3条第1項第1号に掲げる医師との連携方法その他の緊急時等における対応方法を定めておかなければならない。

(管理者による管理)

第24条 指定介護老人福祉施設の管理者は、専ら当該指定介護老人福祉施設の職務に従事する常勤の者でなければならない。ただし、当該指定介護老人福祉施設の管理上支障がない場合は、同一敷地内にある他の事業所、施設等又は当該指定介護老人福祉施設のサテライト型居住施設の職務に従事することができる。

(協力病院等)

第32条 指定介護老人福祉施設は、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関(第3号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。)を定めておかなければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととしても差し支えない。

(1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。

(2) 当該指定介護老人福祉施設からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。

(3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該指定介護老人福祉施設の医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

2 前項の規定により定める協力医療機関のうち、1以上は市内の医療機関とするよう努めなければならない。

3 指定介護老人福祉施設は、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、市長に届け出なければならない。

4 指定介護老人福祉施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対

第32条 指定介護老人福祉施設は、入院治療を必要とする入所者のために、あらかじめ、協力病院を定めておかなければならない。

2 前項の規定により定める協力病院のうち、1以上は市内の病院とするよう努めなければならない。

する医療に関する法律(平成10年法律第114号)第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関(次項において「第二種協定指定医療機関」という。)との間で、新興感染症(同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。)の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

5 指定介護老人福祉施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

6 指定介護老人福祉施設は、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該指定介護老人福祉施設に速やかに入所させることができるように努めなければならない。

7 条文略

(揭示)

第33条 指定介護老人福祉施設は、当該指定介護老人福祉施設の見やすい場所に、第27条に規定する運営規程の概要、従業者の勤務の体制、協力医療機関、利用料その他のサービスの選択に

3 条文略

(揭示)

第33条 指定介護老人福祉施設は、当該指定介護老人福祉施設の見やすい場所に、第27条に規定する運営規程の概要、従業者の勤務の体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資す

資すると認められる重要事項(以下この条において単に「重要事項」という。)を掲示しなければならない。

2 指定介護老人福祉施設は、重要事項を記載した書面を当該指定介護老人福祉施設に備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることにより、前項の規定による掲示に代えることができる。

3 指定介護老人福祉施設は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

(入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置)

第39条の3 指定介護老人福祉施設は、当該指定介護老人福祉施設における業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該指定介護老人福祉施設における入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的に開催しなければならない。

(記録の整備)

第41条 条文略

2 条文略

ると認められる重要事項を掲示しなければならない。

2 指定介護老人福祉施設は、前項に規定する事項を記載した書面を当該指定介護老人福祉施設に備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることにより、同項の規定による掲示に代えることができる。

(記録の整備)

第41条 条文略

2 条文略

- (1) 条文略
- (2) 第11条第2項の規定による提供した具体的なサービスの内容等の記録
- (3) 第14条第5項の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録
- (4) 第23条の規定による市町村への通知に係る記録
- (5) 第37条第2項の規定による苦情の内容等の記録
- (6) 第39条第3項の規定による事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録
(勤務体制の確保等)

第51条 条文略

2 条文略

〈

4 条文略

5 ユニット型指定介護老人福祉施設の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

6 条文略

- (1) 条文略
- (2) 第11条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録
- (3) 第14条第5項に規定する身体的拘束等の態様及び時間、その際の入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録
- (4) 第23条に規定する市町村への通知に係る記録
- (5) 第37条第2項に規定する苦情の内容等の記録
- (6) 第39条第3項に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録
(勤務体制の確保等)

第51条 条文略

2 条文略

〈

4 条文略

5 条文略

